

「ゼロ・ウェイスト政策から考えるサニテーションシステム（上勝町）」

課題（状況）

- ・町内では合併処理浄化槽を使用し、汚泥は広域し尿処理施設に運搬・処分するため多額の行政経費が必要
- ・ゼロウェイスト宣言を行い、廃棄物を34分類に分別処分量削減に取り組んでおり、この考えを生活排水にも広げる

目標（数値）

- し尿や雑排水を地域で処理、有用資源としてリサイクル可能な分散型処理（エコ・サニテーション）システムの構築を目指すー各戸での分散処理を行う
- ・汚泥/し尿の広域運搬が不要となり、上水使用量の削減、CO2削減に繋がる

具体的取組

- ①・トイレ/浄化槽から発生する汚泥の削減・資源化をLIXILが研究開発中の「エコ・サニテーションモデル」を用いて検討。民家1世帯に設置、データ収集・評価、改良を進める
- ・3人家族の民家 屋外に試験機を設置 水道・電機代などコストの集計、水質分析、技術課題の抽出、地域全体の費用対効果を検証
- ・トイレし尿は発酵分解処理。発酵残渣は堆肥として利用。
- ・浴室/キッチン等-専用の雑排水処理装置で処理
- ⑥・実証実験の場として34品目の分別収集を行っている環境意識の高い町民
- ・実証実験の目標・役割分担が明確であった上勝町：費用対効果の検証等
- LIXIL：データ収集、試作開発、モデル構築

・浄化槽法、建築基準法(浄化槽施工) など水洗トイレと浄化槽を組合せたシステムに関する制度や規制が関係

規制・環境変化

・今後設備の商品化を進めていくなかで具体的な課題について、県等と協議して対応する

解決

上勝町プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源
人材

支援政策
協力者

産学連携
技術

- ・上勝町有機農業研究会 特になし
- ・地職住推進機構

- ・株式会社LIXIL総合研究所（実証実験のデータ収集、研究開発を担当）
- ・上勝町役場(実証実験から費用対効果を検証)

成果（数値）

- 焼却処理に頼らないごみ処理を進めており、システム導入に伴い以下が期待される
- ・発生汚泥の削減、家庭排水の水質向上
- ・し尿処理施設までの運搬がなくなるーCO2, 運搬経費の削減が可能
- ・装置のメンテナンスによる雇用創出
- ・発酵残渣の農業への利用

地域の変化

- 分散型処理システムは人口の増減に可変的に対応できるため、地域の期待は大きい
- ーこの取組みも視察者の増加に繋がれば、環境の質向上に加え、経済的効果も期待できる

残る課題

- ・し尿の発酵分解と同時に生ごみを合併処理すること
- ・浄化槽法や建築基準法など法規制上の課題への対応
- ・トイレの使用状況データによる見守り、ライブモニターへの活用等

次の行動

- ・導入コスト、ランニングコストは合併浄化槽と同等もしくは以下を実現する
- ・生ごみの混合処理の検討
- ・宿泊施設など大型施設での対応方法